

平成 27 年 9 月 15 日

鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科で
扁桃周囲膿瘍の治療を受けた患者さんへ
(臨床研究に関する情報)

鹿児島大学病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の診療記録をまとめることによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するご質問等がございましたら、下記の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】 扁桃周囲膿瘍のCTにおける分類と即時扁桃摘出術の適応についての後ろ向き研究

【研究機関】 鹿児島大学病院 感覚器センター 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

【研究代表者】 宮下圭一（耳鼻咽喉科・頭頸部外科・助教）

【研究の目的】

扁桃周囲膿瘍は、耳鼻咽喉科日常診療において頻繁に遭遇する疾患です。抗菌剤投与のみでは改善しない症例も多く、十分な排膿を行うことが治療の主体となります。排膿が不十分な場合には膿瘍が更に進展し、深頸部膿瘍や縦隔膿瘍など生命に関わる重篤な疾患へと進展することもあります。扁桃周囲膿瘍に対する外科的排膿術は、局所麻酔下の膿瘍穿刺吸引術、切開排膿術、全身麻酔下の即時扁桃摘出術のいずれかが選択されます。侵襲の程度は大きくなりますが、即時扁桃摘出術は穿刺吸引術や切開排膿術より確実な排膿が可能で、不十分な排膿による更なる増悪ということを避けることができます。また、他の治療法では 15%程度の症例で再発するがありますが、即時扁桃摘出では再発を引き起こすことが

ないという利点もあります。しかしながら、各々の手技の適応については明確にされておらず、各施設の判断により選択されているのが現状です。当科では、全身的な禁忌事項がない限りは即時扁桃摘出術を積極的に行ってきました。今回、即時膿瘍扁桃摘出術による排膿がどのような症例により望ましいのかを明らかにすることを目的とし、カルテ記録から後ろ向きに検討を行うこととしました。

【研究の方法】

●対象となる患者さん

平成21年4月1日～平成26年3月31日までに、鹿児島大学病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科を受診し、扁桃周囲膿瘍の診断で、即時扁桃摘出術を受けた患者さんを対象にしています。

●利用するカルテ情報

膿瘍の形態・位置・進展範囲、喉頭浮腫の有無、病悩期間、入院期間、術後合併症の有無

【個人情報の取り扱い】

使用する情報は、お名前や住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌などで発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は使用しません。

【研究の資金源等、関係機関との関係について】

この研究は、鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の研究費で実施します。企業等からの寄付は受けていませんので、利害の衝突は発生しません。

【参加を希望しない患者さんへ】

この研究に参加を希望されない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。あなたに関するデータを削除します。ただし、学術発表などすでに公開された後

のデータなど、患者さんまたはご家族からの撤回の内容に従った措置を講じることが困難となる場合があります。

【問い合わせ先】

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番地1号

鹿児島大学病院 感覚器センター 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

助教 宮下圭一

電話 099-275-5410 FAX 099-264-8296